

Title	CSCDがいなくなる日
Author(s)	仲野, 徹
Citation	Communication-Design. 2010, 3, p. 70-71
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/12454">https://hdl.handle.net/11094/12454</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## CSCDがいらなくなる日

---

大阪大学大学院生命機能研究科・医学系研究科 教授

仲野 徹

なにごとくも安請け合いはしないほうがいい、と思いつつも、ついしてしまう。思い起こせば、CSCDの兼任教員を依頼された時もそうであったし、この原稿を頼まれた時もそうであった。たいがいは、安請け合いたったことが、いざ形のある仕事としてやってくる段になり、困難な現実に直面して後悔することになるのである。

「CSCDに期待すること」を書こうとして、はたと困ってしまった。兼任教員をひきうけながら何もしてこなかったのがまるわかりであるけれど、CSCDが何をしているのかがよくわかっていないのである。あらためて調べてみると、いろいろなことが書かれている。いかに安請け合いた兼任教員であっても、これだけのことを小さなセンターでカバーするとなるとさぞかし大変であろうということがぐらいはわかる。いずれも、いまどきの大学のミッ

---

ションとしてやらねばならないし、時間に余裕があれば、それぞれの教員がやってみようかと思うような内容ばかりである。しかし、独立法人化後、なにやら多くのことがせちがらくなり、自分のことでせいっぱいで、どうしても後回しになってしまいがちになりそうなことばかりでもある。こういった仕事をおまかせにしてしまえばいいのであるから、多くの教員にとって、CSCDの存在はありがたいものだろう。

本来なら、みなが少しずつの時間をさいて頭をひねっておこなうべきことを、ひとまとめに背負っていかなければならない、ということが、CSCDにとって重荷になっていないだろうか、そして、あれもこれもやっていくという懐の深さが、逆に、CSCDの存在を見えにくくしてはいないだろうか。自分たちで面白いことをする、あるいは、面

白がるだけでなく、たとえ守備範囲を狭めてでも、まずは、多くの教員が、忙しいけれどいっしょにやってみたいと思わせるような魅力的なプランを出すことが、CSCDにとっていちばん大事なことだろう。そうなれば、いわば「市」がたつように、いろいろなことがどんどん拡大的に自発的におこなわれていくようになるだろう。少しおかしな期待のしかたかもしれないが、そのような日、CSCDが不要になる日がいつかやってくるように、素晴らしい種をまき続けてもらいたい。